



第 9 号

発 行
 旭区大宮西之町 4-18
 府立旭高校同窓会
 発行人 西中紀博
 編 集
 旭窓会報編集委員会
 印 刷 所
 宏栄印刷株式会社

7月25日(日)同窓会総会 於母校

本年度の同窓会総会について、四月以来検討した結果、昨年同様の形式で、来る七月二十五日(日)午後三時三十分より、旭窓会館で開催することを理事会で決定しました。

先生方にも、できるだけ多数参加下さるようお願いもいたしますので、多くの方の参加を期待しています。

なお、アトラクションに、寄席を計画しています。

以下当日の予定をお知らせしておきます。

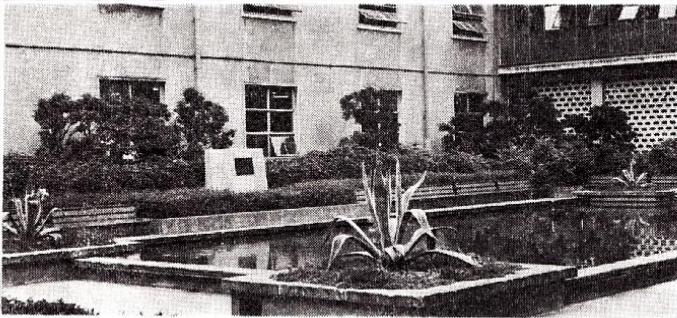
一、午後三時三十分より総会

総会次第

- 一、会長挨拶
 - 二、学校長挨拶
 - 三、会務報告
 - 四、会計報告
 - 五、会計監査報告
 - 六、昭和四十六年度役員選出
 - 七、顧問推挙
 - 八、その他
- 二、午後五時よりアトラクション
 寄席(落語、漫才等)
- 三、午後五時四十分より懇親会
 於旭窓会館

7月25日

旭で会おう



昭和四十五年度会計報告

卒業生の皆様に一言挨拶を申しのべます。私本校に赴任して早や七年余りになりますが、その間に先生方も約半数は替り、施設も追々に充実いたしました。生徒の方も一時は一ヶ学年十クラスにまで膨脹したが、その後八クラスに減り、更に本年からは九クラス編成に定着することになりました。

挨拶

挨拶

学校長 阪井正雄

就職希望者数は近年は毎年三十名内外にまで減っており、進路関係から言えば、本校はいよいよ進学校としての性格が明確になってきたのであるが、極端に言えば、たとえ一人でも二人でも就職希望の生徒がいる限り

受けて、今や教育体系の全面的改革が必至となりつつあり、当面、高校の教育課程及びその内容もかなり変わることが確定したし、殊に大阪では高校入試選抜方法の再検討が早急にせまられている状態で、重大な局面を

時代に合わせて、今や教育体系の全面的改革が必至となりつつあり、当面、高校の教育課程及びその内容もかなり変わることが確定したし、殊に大阪では高校入試選抜方法の再検討が早急にせまられている状態で、重大な局面を

同窓会の皆様御機嫌如何でしょうか。本年も総会の日が近づいてまいりました。例年総会は会員の方々が沢山出席願えるよう、八月下旬に総会を持って来ましたが、本年は役員意向で八月よりも七月下旬の方がかえって出やすいとの

局から、二十周年記念事業として、式典、校史の編集等の計画がなされている旨の報告をうけ、同窓会のほうにもこの記念事業への賛同についての呼びかけを戴きました。これは私共母校旭高校に關係する者すべての

私達が母校を卒業しまして以来、恩師ならびに後輩諸氏の御尽力により、目出度く二十年の歴史を築き上げていただいたことについて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。いろいろその間においての

挨拶

同窓会長 西中紀博

さて皆様方も御承知の通り、母校旭高校が来年昭和四十七年で創立二十周年を迎えるに至りました。つきましては過日五月六日に開きました四十六年度第一回目の理事会の席上、学校当

祝い事でありましたので是非その計画に参加させていただきよう返答申し上げます。それで詳細につきましては来る総会時に皆様方に連絡しまして、最終的な同意を得たく予定をしております。その節は何卒よろしくお願

間は波風の立った日があったように思いますが、ともあれ私共同窓生としましては母校「旭」がこれからも悠久の歴史をもつものであるよう来年の記念の年を機にお互更に努力してまいりたいものであると努力してまいります。

旭の二十年

— 創立二十周年記念誌 —

＜内容一例＞

- ・ 編年史・旭の二十年
- ・ 勤評闘争始末記
- ・ 旭反連の叛乱
- ・ 校歌決定のいきさつ

週刊誌サイズで約五十頁。写真多数収録。頒価は未定ですが送料も含めて三〇〇円位の予定。入手希望者は予約しておいて下さい。後日、頒価をお知らせし、送金下さった方に頒布いたします。

予約締切 昭和四十六年八月三十一日
申込先 大阪府立旭高等学校 校史係 (関連記事四面)

45年度 母校進路状況

合計一八八名

〔進学状況〕 ()内は進学者数
国公立大学

- 阪大 (二) ・ 北大 (一) ・ 東北
- 大 (一) ・ 鳥取大 (一) ・ 広島大
- (一) ・ 大教大 (五) ・ 奈教大 (一)
- (一) ・ 神商船大 (一) ・ 信州大 (一)
- (一) ・ 京工大 (二) ・ 大外大 (一)
- (一) ・ 和太 (一) ・ 大府大 (十一)
- ・ 大市大 (六) ・ 姫工大 (二) ・ 神商大 (一) ・ その他 (十三)

〔就職状況〕

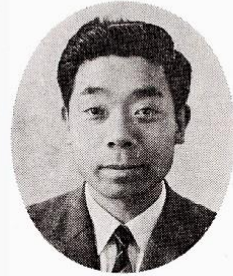
- 製造業 (八) ・ 販売業 (七) ・ 金融・保険業 (十) ・ 電気ガス (一) ・ サービス業 (一) ・ 公務 (五)
- 合計三十二名
- 母校人事異動**
- 転出された先生
池田先生 (国語) ↓ 第七十四高校 設立準備室次長へ
- 藤井先生 (事務) ↓ 枚方高校へ 転入された先生
- 関学大 (六) ・ 関西大 (三十九)
- (一) ・ 同志社大 (二十二) ・ 立命大 (二十二) ・ 大工大 (十五) ・ 近大 (七) ・ 甲南大 (七) ・ 竜谷大 (六) ・ 慶応大 (三) ・ 早稲田大 (一) ・ その他 (五十九)

私立大学

- 武笠裕司先生 (国語) ・ 内垣進一先生 (生物) ・ 板東良二先生 (体育) ・ 中野昌美先生 (英語) ・ 青山正広さん (事務) ・ 橋本幸枝さん (事務)

十五年を思う

山本 茂雄



が始まるのだ。」としみじみ思ったものでした。京都の東舞鶴高校で西も東も考えずに四年をすごした私にとって、旭の生活は本当の意味での教師生活のスタートでした。下宿がみつかるまで一か月あまり、校門の傍の守衛室(電気、ガス、水道、トイレ付き)での生活もなつかしいものでした。

同窓生の皆さん、お元気でいらっしゃいますか。私、十五年にわたる旭高校での生活にお別れをしまして、昨年四月より三島高校につとめております。離任に際しては、同窓会より格別の御配慮を賜わり、ありがとうございます。改めて御礼申し上げます。

三島高校は昨年四月に高槻市に開校されたばかりの赤ん坊です。一学年十学級、四七〇名で発足し、現在は校舎一棟だけです。第一期生が卒業するまでには、体育館、プール、食堂などを含むすべての校舎施設が完成する予定です。七〇年に新設された高校、という意義を考えながら、新しい時代の新しい高校づくりをめざしてがんばっております。

十五年の旭の生活——それは私を教師として大きく成長させてくれました。さまざまなお仕事に出されます。三十三年の勤評闘争のもつれから一学期間、赤旗が林立する校門をくぐりながらの重苦しい学校生活、ファイヤー・ストーム問題(三期・六期)、長髪問題(六期)、スタンド問題(十二期)そして一昨年の旭反連闘争等々、いずれも旭の歴史にとって、また私自身の歴史にとって重大な契機となったものばかりでした。生徒会顧問、生徒指導部長という仕事の関係で、このような問題では、たえず生徒とじかに接することができたのは私にとって大きな幸わせでした。立場の相違はあり、お互いの議論がかみ合わず、話し合いのつかなかったこともたくさんありましたが、私は私なりの教育観と信念に基づいて生徒に接し、議論をしてきました。自分の考えが生徒に理解してもらえないときの、言いようもないさびしさも何度となく味わいました。しかし、誠心誠意、自分の教育的良心に従ってやってきたことへのすがすがしさも同時に味わいました。

同窓生の皆さんが、それぞれの分野で立派に活躍されている姿を直接間接に見聞するにつけても、皆さん方の人間形成の基盤に、私が旭でやってきたことがどれだけのプラスになっているのかどうかを思うと、まったく汗顔の至りです。これから先、同一校に十五年もつとめるということはめったにならぬと思います。そういう意味で、私の青春をかけた旭の生活は私の精神生活に占める比重としてきわめて大きいものがあります。私をここまで成長させていたのだらぬ同窓生の皆さん、長い間本当にお世話になりました。「ゴンサン」と親しまれてきた(と、私はうぬぼれています)私ですが、これからは大いに勉強し、中味の新しいゴンサンになるよう、三島でもよろしく願います。

おついでがありましたら、赤ん坊の顔を見に来て下さい。同窓生の皆さんの今後のいっそこの御健闘を心よりお祈りしてお別れの御挨拶にさせていただきます。さようなら！

(六月三十日記)

タレント

八期 檀上 英子

とに角大変でした。私達の仕事というのには「クビ」の保障がありませんから、気にいらなければすぐに「チョン」ですからね。日雇というより時間雇いのようです。最近のラジオは生放送が多いのでこわいです。友達の中でもうっかり「サソリの刺青」というのを「サソリのさしみ」「弘田三枝子」を「コウダミエコ」なんて読んだり、又、車の会社のスポンサーの番組で交通事故の話をしてお目玉をくらった人がいます。何とかDJをトチらせてやろうと、広島県因島市を「イントーシ」なんてカナをふって来て私達を困らせてくれます。

テレビの生放送の時、桂三枝さんが一人でしゃべっている所へ、間違って女性がチョコチョコと出て行きました。局の人があわてて手で知らせたので、三枝さんの最後に来た時に気がつき、急にその後にかくれたものだから、三枝さんの頭の両側に女性の髪型が大きく出てしまいました。テレビを見ていた人にはコッケイな姿にみえた事でしょう。

何年たってもまだまだ新人のつもり。だって一回一回仕事が違うし、しょつ中新しい仕事が来るから……。それにナレるとマンネリだと言われるし。でも、でも楽しいです。まだまだ何年も何年もやりたいです。だから今年も、又、売れ残りになりそうです。

「旭の二十年」余話

山田耕作

来年、旭高校は創立二十周年を迎えます。私は、今、校史の執筆をしています。私には、歴史家ではありませんから、史観を知らず、史的評価を下す能力もありません。せめてものこととして、足跡を記録にとどめておこう、こう思って、いろいろな資料をあさったり、先生方にたずねたり、私の記憶をよみがえらせたりして、旭高校の二十年の足跡をたどっています。

あんなことがあった、こんなことがあった、こう思い出す時、一つの事件に対して、思い出す人の個人的見解や、喜怒哀楽の情がつきまとうものですが、私は、私自身を無にして客観的に書こうと努力しています。二十年を一年ごとにきざみ、さらに一年を三六五日にきざみ、事件の起こった順序を追って記録にとどめています。新聞のように見出しをつけ、記事を書くという体裁をとっています。

出来上がったものは、新聞集成の編年史のようなものになるつもりです。

旭高校に関係のあった人がこの記録を目にした時、各人の個人的見解でいろいろ、喜怒哀楽の情で染めあげてもらったらい、そし

て、新しい明日への出発のための何かを見つけて出してもらえたら望外の喜びだ、こう思っています。

私は、今、旭高校の足跡をたどりながら、旭の教育はいかにあったかということよりは、いかにあるべきであったかという思いを深くしています。この思いは、明日からの教育はいかにあるべきかという思いにつながっていきます。この思いを深め育てることを大切にしたいと思っています。

話題をかえて、校歌制定までの足跡を見出しで紹介しておきましょう。関係した先生、生徒には、終生、忘れることのできない思い出の一つであることと思います。

S 29。校歌制定に着手

S 30。今中楓溪氏に作詞を依頼——応募作品 入選なし

S 31。今中氏歌詞を推敲——先生・生徒 “旭”の個性を歌ってほしい

S 32。校歌制定を断念——生徒会 再出発を図る

S 33。歌詞 三たび募集

S 34。歌詞 やはり決定できず

S 35。待望の校歌を披露——作曲は片岡、宮越両先生 (1971・6・17)

教育実習で

母校に帰って

14期生 T・K

教育実習生として、現在、旭高校に再び、通っています。

なるべく雑記風に書いていきたいと思っています。

旭高校は形態的には、あまり変化はありませんが、北側にある新館は3階となり、3階には美術室、家庭科室ができた事、又、南館に

アンテナが建てられた事、そして、学校の柵が金網から、ブロック壁になった事ぐらいである。

2年の授業をやってみて、教育熱心な先生方の熱意が生徒達にうつり、非常にもしろくかつ内容のある授業を展開したクラスもあるようだ。

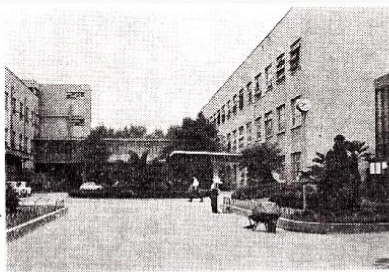
しかし、その反面では、何か思考することを放棄しているように思える生徒、学習意欲をほとんど

失ってしまったような生徒も現実にはかなりいるようだ。

旭にかぎらず最近の生徒は無気力であると言われる。教育の場といっても社会の諸機能と、まったく別に存在するものでもない。社会の諸矛盾も当然そこに反映されてくるのである。生徒の無気力化というのは、ただ単に生徒の方だけにその責任はむけられないのではなからうか。

政治も政治家にも期待することができない今の日本において、教育に唯一の期待をかけた。社会の変革をせよ旭高校の教育の場からやってもいいと思います。

非常に主観的になりましたが旭の生徒はこんな状態です。教職課程をとっておられる多くの卒業生がせよ旭へ実習へきて、生徒に新鮮な風を吹きこんでもらいたいと思います。



お知らせとお願い

○母校の住所が変わります。

本年九月一日より町名変更で、左記のように変わりますので、今後の連絡などよろしくお願ひします。

旭区高殿五丁目六番四一号

○会員の住所変更等で、会報等を郵送しても、返送される数かかな

場合があります。

○来年20周年特集号の発行を予定していますので、支出負担増を考慮、広告の御協力を願ひします。問合わせは社会科高橋先生または二宮先生まで。

○理事の方は、今後の理事会に是非出席下さい。幹事の方も同期会員の動向等をなるべく早く御連絡下さい。